

長興寺コース

距離／約3.5km 所要時間／約1時間45分



長興寺のなりたち



「長興寺
シンボルマーク」

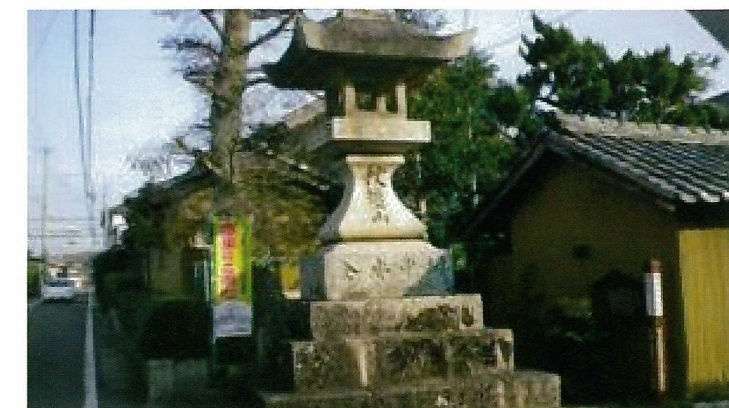
長興寺村は矢作川中流右岸に接し、現代の長興寺・竜宮町・秋葉町・平山町の地域に相当する。そこには二十数基の古墳・遺跡が密集していて、往時の繁栄が偲ばれる。中世から近世にかけて矢作川による運搬や石工の町として物産が豊富で有り、旧根川村第一の隆盛村であった。永正4年(1507年)衣郷から分村して長興寺と称した。長興寺と八王子社(八柱神社)の創建により、中条秀長の支配力と影響は大きく、村の基礎が築かれた。

2 八柱神社(長興寺2丁目)



建武5年5月22日(1338年)長興寺開山太陽義沖和尚が京都の加茂明神の祭礼に出向き、加茂明神の東の国にいる8人の王子をお祭りしたので長興寺八王社と言い中条秀長が神社を建て、明治6年に八柱神社と改称され今日にいたる。地域では、馬が神様として知られており本殿には馬具(1750年作)がお祀りしてあり祭礼には献馬が奉納される。

4 秋葉山常夜燈(長興寺9丁目)



常夜燈は文化12年(1815年)「村内安全」「火災防除」を祈願して11代將軍徳川家斉公の時代に造られた。常夜燈は、昔の岡崎街道を往来する人々の安全と村の目印の役目も果たしてきた。長興寺の常夜燈は、高さ5.38mあり豊田市内で一番高いもので、昔から石工の村いわれるにふさわしい造りである。

1 集雲山長興寺(長興寺1丁目)



集雲山長興寺は、京都市の臨済宗東福寺派に属する。建武2年(1335年)この地の領主であった中条秀長によって開創されたもので、太陽義沖を招いて開山とした。現在、寺には重要文化財「紙本着色織田信長像」「絹本着色仏涅槃図」県指定文化財「絹本墨画三十三観音像」など数多くの文化財が残されている。

3 社口社(長興寺2丁目)



昔から「お社口さん」の愛称で呼ばれている「お社口さん」の社口は、社富司、通軍神がなまったものと言われている。長興寺の社口社は、江戸時代の古絵図によると現在地と秋葉神社の鳥居の近くに記載されている。現在地の社口社は男女2体を祀り「雄社口」「雌社口」と呼びその由来は定かではないが、子宝を授かる「安産の神」と崇められている。

5 秋葉神社(秋葉町7丁目)



いつ頃建ったかははっきりしていないが、一説によると1338年(建武5年)長興寺八柱神社と同じ年に勧請されたと言われている。長興寺区一円を氏子として愛知県神社庁と言う。ここからは長興寺地区が一望でき、遠く下町(豊田市街地)や猿投山も眺望できる。7月には天王祭が行われ提灯文字が夜空に浮かび幻想的である。

歴史の香る

散歩みち

朝日丘地域
長興寺
コース



ハイブリッドシティ
環境モデル都市 とよた

朝日丘まちづくり委員会

朝日丘地域全体図

拳母城 (七州城)

最初の城は衣金谷城で延慶3年(1310年)足利尊氏の家臣中条影長が衣城を築く。のち慶長9年(1604年)三宅康貞が陣屋(桜城)を構え、一時天領となるが、天和1年(1681年)本多忠利が陣屋を継ぎ「拳母」に改名。寛延2年(1749年)内藤政苗が陣屋に広大な城を築城するが、矢作川の洪水で断念。天明2年(1782年)童子山へ移転し、同5年に本丸城郭整うが、外郭は未完成のまま明治4年(1871年)拳母城廃城となり、公売される。



- | 凡 例 | |
|--------|------------------------|
| 三軒屋コース | 歴史の香る散策コース (三軒屋・小坂コース) |
| 小坂コース | 歴史の香る散策コース (樹木・金谷コース) |
| 樹木コース | 枝下緑道コース |
| 金谷コース | 下市場・長興寺・下林コース |
| 下林コース | 陽だまり |
| 下市場コース | |
| 長興寺コース | |

① 陽だまり散歩みち (各自治区コース)

地域の方々が無理なく歩ける身近な散歩道とし、近隣住民が気軽に集い、おしゃべりができるたまり場(陽だまり)をコース途中に設けます。公園や神社など、トイレや休憩施設があるところを陽だまりとしますが、陽だまりによっては、新たにベンチや東屋などを設置します。

② 歴史の香る散策コース

地域の中でも、多くの歴史的・文化的な地域資源がある金谷～樹木地区、小坂～三軒屋地区を巡るコース。樹木の古い町並み、拳母城(七州城)、毘森公園などの見所があります。「三軒屋・小坂コース」と「樹木・金谷コース」の2コースです。

③ 枝下緑道コース

枝下緑道を経由して下市場～長興寺～下林を巡るコースです。桜並木や水辺などの自然、長興寺をはじめとする寺社などの見所があります。

